
爪

姉子

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

爪

【コード】

N9928D

【作者名】

姉子

【あらすじ】

彼はとても汚かった。顔にはケチャップがついたままで、服は3日連続同じもの。爪は長く、黒ずんでいた。その爪で引っかいて、あの嫌な音を教室中に鳴り響かす。私はたまたま教室を飛び出すのが、彼は追ってきてしまう。そんな彼を必死に振り払おうとして・・・

音がする。

嫌な音だ。

耳から入り込み、脳をかき乱して思考が断絶される。

まるで背中に氷を滑らしたかのような寒気、肋骨の上が痺れてくすぐったい。

音の元を探り、前を見る。

あまり堂々とは見ない。

時計を見るふりをして、目線を泳がす。

誰も気づいていない。

誰も気づきはしない。

彼がいた。

土や泥が入り、黒ずんだ長い爪。

汚い。

顔もケチャップがついたままで、服は3日連続変わっていない。

汚い、すごく汚い。

毎日喧嘩して、腕も足も傷だらけ。

・・・汚い。

こんなに汚い人がいる場所にいたくない。

自分も汚れてしまいそうだ。

机のものと、見ていた本をかばんに入れ席を立った。

「あ、それ！」

まずい。

近づいてくる。

「待つてよー!」

呼ばないでほしい。

誰もが変な目で見てくる。

廊下は本来走ってはいけないが、今はそんなこと守ってる場合じゃない。

追ってくる。

誰もがささやいている。

息は上がるし、めまいはするし、何か迫り上がってくる。

嫌な音はまだ鳴り止まない。

「ひーちゃん!」

呼ばないでよ!

叫ばないでよ!

惨めにさせないでよ!

あんたのほう汚いのよ!

足がもつれて、地面にぶつかった。

まだここには誰がいる。

きれいな白いワンピースに、血がついている。

大きな石が足元に転がり、笑っていた。

笑ってる。

みんな笑っている。

「大丈夫?」

彼だった。

汚い彼だ。

その汚い爪をこっちに向けしないで。
その汚い顔をこっちに向けしないで。

「痛い？先生呼ぶ？一緒に行つてあげよっか？」

やめてよ、汚い。

「泣かないで、痛い？一緒に行こう」

その爪で、腕で、支えないで。

その顔で、声をかけたりしないで。

笑われる、みんなに笑われるよ。

あいつは汚いつて。

あいつに近寄ると汚くなるつて。

白い服なんて全然似合わないつて。

「ね、さっき教室で読んでた本貸してくれる？」

笑わないでよ。

話さないでよ。

触れないでよ。

涙が止まらなくなるのよ。

「・・・え？ごめん。もうしないからさ、貸してよ。大切にするか
ら、どつちも」

笑つてる。

彼が笑つてる。

もうしないと、彼が言う。

私と、約束した。

「ありがとう」

彼は不思議そうにした。

わかってなくてもいい。

それが一番、汚い彼のきれいなもの。

私を救う、誰よりもきれいな心。

あの音はもうしない。

「ひーちゃん」

「ゆーくん」

長い爪はなくなり、私は白いワンピースを着て、彼と手をつないだ。

(後書き)

読んでくださってありがとうございます。

いじめられた子が折れないように必死に他人を蔑み、ふと見せられた優さにころっと救われた話を考えてみました。

まだまだ未熟ですが、今後ともどうぞよろしく願います。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9928d/>

爪

2010年11月24日07時53分発行